

平成 29 年 11 月 15 日

平成 28 年度低学年教育点検集計結果とまとめ

点検評価委員会

(1) 総合成績評価表点検の集計結果

学科名	科目数	提出科目数と割合		シラバスの評価方法通りの評価方法(計算式)か		評価方法の欄の通りに学年成績を計算しているか	
		提出数	割合	×の数	割合	×の数	割合
生産機械	22	21	95%	1	4.5%	1	4.5%
生産電気	22	22	100%	0	0.0%	2	9.1%
生産情報	20	10	50%	0	0.0%	0	0.0%
物質環境	21	21	100%	4	19.0%	1	4.8%
社会基盤	20	20	100%	2	10.0%	3	15.0%
一般人文	114	114	100%	37	32.5%	7	6.1%
一般理数	79	79	100%	11	13.9%	2	2.5%
総合	298	287	96.3%	55	18.5%	16	5.4%
H27			99.2%		4.7%		2.0%

(2) 総評

- 総合評価表が提出されていない、あるいは確認できない科目が多くあり、特に生産システム工学科・情報コースの提出率が 50%となっている。
- 成績評価がシラバスの評価方法通りになされていない科目が、全体の 18.5%となった。特に、一般科目人文系では、32.5%の科目でシラバス通りの評価が行われていない。
- 全体として提出率、成績評価の方法とも、H27 の点検結果より悪化した。

(3) 今後の課題

- 総合成績評価表の提出率を 100%にしなければならない。それとともに、試験答案などのエビデンスの提出も徹底する必要がある。
- シラバスに示した評価方法通りに成績評価を行うことを徹底する。シラバスに示した評価方法が妥当でないもの、合理的でないもの、定量的でないものは、シラバスの修正を行うべきである。
- シラバスと総合成績評価表の評価方法を一致させることの周知を徹底するとともに、未提出、評価方法の不備があった科目の担当教員には改善指示を行う。

平成 28 年度「複合型システム工学プログラム」

(本科 5 年, 専攻科) 教育点検集計結果とまとめ

点検評価委員会

(1) 総合成績評価表点検の集計結果

	提出科目数と割合			水準 設定 設定は 妥当か	講義 時間数 講義時間数 は単位数に 相当する実 時間以上か	評価方法		試験問題の類似性	
	総科目数	提出数	割合			シラバスの 評価方法が 具体的か	シラバスの 評価方法で 評価したか (不明瞭な ものはない か)	本試 (昨年 度との比 較)	再試 (本試 との比較)
機械工学科	23	23	100%	0	0	0	0	0	0
電気電子工学科	14	14	100%	0	0	0	0	0	0
情報工学科	18	16	89%	0	0	0	0	0	0
物質工学科	23	23	100%	0	0	0	0	0	0
環境都市工学科	25	25	100%	0	0	0	0	0	0
一般科目	23	23	100%	0	0	0	0	0	0
本科合計	126	124	98%	0	0	0	0	0	0
本科合計(%)				0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
H27点検結果(%)				0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%

	提出科目数と割合			水準 設定 設定は 妥当か	講義 時間数 講義時間数 は単位数に 相当する実 時間以上か	評価方法		試験問題の類似性	
	総科目数	提出数	割合			シラバスの 評価方法が 具体的か	シラバスの 評価方法で 評価したか (不明瞭な ものはない か)	本試 (昨年 度との比 較)	再試 (本試 との比較)
一般科目・専門共通科目	30	29	97%	0	0	0	0	0	0
生産システム工学専攻	34	34	100%	0	0	1	6	0	0
環境システム工学専攻	29	29	100%	0	0	0	0	0	0
専攻科合計	93	92	99%	0	0	1	6	0	0
専攻科合計(%)				0.0%	0.0%	0.8%	4.8%	0.0%	0.0%
H27点検結果(%)				0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(2) 総評

- 総合評価表の提出率が 100%になっていない。情報工学科で 89%、専攻科一般科目共通科目で 97%である。
- 本科 5 年生の科目では、すべての点検項目において、問題がある科目は無かった。
- 専攻科では、生産システム工学総合演習で、9 名の担当教員のうち 6 名の担当分野で、シラバスの評価方法に従って成績が評価されていないことが確認された。さらにそのうちの 1 名でシラバスの評価方法が具体的でないことが指摘された。

(3) 今後の課題

- 総合成績評価表の提出率を 100%にしなければならない。
- シラバスに示した評価方法通りに成績評価を行うことを徹底する。
- シラバスと総合成績評価表の評価方法を一致させることの周知を徹底するとともに、シラバスに示された評価方法が適切でない科目、未提出、評価方法の不備があった科目の担当教員には改善指示を行う。

平成 29 年 11 月 15 日

平成 28 年度 新カリキュラム高学年（本科 4 年）

教育点検集計結果とまとめ

点検評価委員会

(1) 総合成績評価表点検の集計結果

学科等	提出科目数と割合			水準 設定 設定は 妥当か	講義 時間数 講義時間数 は単位数に 相当する実 時間以上か	評価方法		試験問題の類似性	
	総科目数	提出数	割合			シラバスの 評価方法が 具体的か	シラバスの 評価方法で 評価したか (不明瞭な ものはない か)	本試（昨年 度との比 較）	再試（本誌 との比較）
一般科目	24	24	100%	0	0	0	4	0	0
生産システム工学科	35	31	89%	0	1	1	2	0	0
生産システム履修コース	54	48	89%	0	3	0	3	0	0
物質環境工学科	20	20	100%	0	0	0	0	0	0
社会基盤工学科	20	20	100%	0	1	0	0	0	0
合計	153	143	93%	0	5	1	9	0	0
合計(%)				0.0%	3.3%	0.7%	5.9%	0.0%	0.0%

(2) 総評

- 総合評価表の提出率が 100%になっていない。生産システム工学科で 89%、生産システム工学科履修コースで 89%である。
- 一般科目、英語系の科目のうち 4 科目で、シラバスの評価方法と異なった評価がなされていることが指摘された。
- 生産システム工学科の科目で信号処理、信号処理基礎で、「期末試験が 0 時間になっている」、「評価方法がシラバスと違う」の問題が指摘された。
- 生産システム工学科・信号処理および信号処理基礎、社会基盤工学科・構造設計製図 I で、講義時間数不足が指摘されている。

(3) 今後の課題

- 総合成績評価表の提出率を 100%にしなければならない。
- シラバスに示した評価方法通りに成績評価を行うことを徹底する。
- 授業時間の確保を徹底する（特に定期試験を行わない科目）。
- シラバスと総合成績評価表の評価方法を一致させることの周知を徹底するとともに、シラバスに示された評価方法が適切でない科目、未提出、評価方法の不備があった科目の担当教員には改善指示を行う。